

群集せり、エトヒリカ、フレシヤムチリといふ鳥など、産物の條に委し、此岩山の形甚だ險阻にして、風景眺望目を驚かすばかり也、扱又ベウツの北にアタツイといふ所有、此處に赤人の家宅五六戸あり、其造作穴居とも云つべき體なり、此處小河にシユルゴマトいふ異魚あり、國を隔れば、産物も又異形の魚鳥異類の物多し、また此アタツイより北にゆき、ヲタレモイといふ所あり、此所はこの島の西北の隅にて、遙の沖に、西にはマカンル、島、北にハレブンチリホイ島、ヤングチリホイ島の三島みゆる也、又ヲタンモイより崎を廻りて、東北の沖にヲレムコといふ小島あり、是より遙の沖にヤンケモシリ島、ヲタホ島、レフンモシリ島、カハルモシリ島の四島あり、此外晴天なればシモシリ島もみゆる、此島はエトロウ島よりは、大島なり、扱此ヲレムコより僅南にゆき、チハイムといふ所あり、此處は獵虎の獵場にて、赤人此地を改名してシヤバリンと號す、此處赤人の泊有、泊とは船の懸る處をいふ也、天明丙午年<sup>○六</sup>以前十ヶ年に、赤人涉海せし時に、大津浪あり、其節大波濤に彼大船打揚られ、山の谷間に懸りたり、赤人ども引出さんとすれ共、其手段なく、その儘大船は山に捨置たりといへり、予是を功觀したり、扱此海を赤人改名してレバキント稱す、赤人假住居の宅五六戸あり、又ワニナウより南に地續き遙に隔て、ノビといふ所あり、都て此邊は獵虎多し、赤人改名してコロシンと名付たり、爰に名産多き島也、

〔野史<sup>二</sup>百八十八〕蝦夷或野作<sup>増譯采覽異言</sup>在陸奥北與津輕龍飛碕南部大間嶽唯隔海水一條耳、凡自四

十三度係五十三度大寒國也、東西屈曲廣狹不一、一州分爲五部、曰波良岐、是謂東部、聚落五十一、<sup>夷語</sup>

曰女那、隔直徑百七十八里、曰岐伊多布、是謂東北部、聚落七、直徑八九十里、曰宇良耶志、遍都、是謂北

部、聚落四、廻北西百四五十里、曰會宇耶、是謂西部、<sup>夷語曰志</sup>由牟久留、聚落四十一、直徑二百餘里、到宇須、遍知

添兩瀆及大河、是謂中部、聚落十三、總五部、<sup>蝦夷記</sup>

〔松前島郷帳〕一人居、村數八拾壹箇所、一蝦夷人居、所百四拾箇所、一總島數四拾八箇所、一田